

教科	科目	単位数	学年	集団
理科	物理	5	3	理系 物理選択者

使用教科書	副教材等
物理（数研出版）	リードα物理基礎・物理（数研出版） フォトサイエンス物理図録（数研出版）

科目の目標
物理的な事物・現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して，物理的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を身につける。

評価の観点とその趣旨	
①知識・技能	物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め，科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身につけている。
②思考・判断・表現	物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深めるために，発展的な知識や物理現象が生じる因果関係について考え、表現することができる。
③主体的に学習に取り組む態度	日常生活や社会との関連を図りながら，物理的な事物・現象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を身につけている。
評価方法	
① 各種テストの知識を問う問題、観察実験での実験操作 ② 各種テストの思考を問う問題、課題や観察実験のレポート ③ 観察実験の参加、観察実験のレポートなど	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4月 5月	第1編 力と運動	剛体 運動量の保存	剛体にはたらく力の効果を理解し、転倒しない条件や重心の位置を求められる。力積と運動量の関係をもとに物体の衝突や分裂などの現象を扱う方法を理解し、考察できる。	○	○	○
5月	第2編 熱と気体	気体のエネルギーと状態変化	気体の法則を式、グラフを用いて説明できる。P-V図から気体の状態を読み取れる。力学で学んだ内容を用いて、気体分子の運動について説明できる。	○	○	○
6月 7月	第4編 電気と磁気	電場 電流	電場の概念を理解し、さまざまな電氣的現象に適用することができる。コンデンサーの性質を理解し、直流回路中の振る舞いを式を用いて説明できる。直流回路における基本的な原理、原則を理解し、回路中の様々な物理量を求められる。	○	○	○
9月 10月 11月		電流と磁場 電磁誘導と電磁波	磁場の概念を理解し、様々な電磁氣的現象に適用することができる。電磁誘導の原理について理解し、身近な現象について説明できる。交流電流の発生原理や性質をもとに、交流回路中の様々な物理量を求められる。	○	○	○
11月 12月 1月	第5編 原子 物理学が拓く未来	電子と光 原子と原子核	電子の発見や物理学の発展の歴史を知り、これまで既知の値として用いてきた物理量を計算によって求められる。光の粒子性、波動性について理解する。原子の発見の歴史や核反応について理解し、説明できる。	○	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
理科	化学	4	3	理系

使用教科書	副教材等
化学（数研出版）	新修アクセス化学（浜島書店） 化学図録（数研出版）

科目の目標
化学的な事物・事象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。

評価の観点とその趣旨	
①知識・技能	化学の基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身に付けている。
②思考・判断・表現	化学的な事物・事象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。
③主体的に学習に取り組む態度	化学的な事物・事象に主体的に関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

評価方法
① 各種テストの知識を問う問題、観察、実験での実験操作 ② 各種テストの思考を問う問題、課題や観察、実験のレポート ③ 観察実験の参加、観察実験のレポートなど

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
1 学 期 前 半	第4編 有機化合物 第4章 芳香族化合物	1 芳香族炭化水素	・芳香族炭化水素の構造とその特徴について理解し、その名称や化学式を書くことができる。	○	○	
		2 フェノール類と芳香族カルボン酸	・ベンゼンの置換、付加及び酸化反応について理解し、化学反応式で表すことができる。 ・ベンゼンの反応を体系的に示すことができる。	○	○	
		3 芳香族アミンとアゾ化合物	・有機化合物の性質を利用して、混合物を分離できることを理解しているとともに、分離の手順について実験操作を含めて理解している。	○	○	
		4 有機化合物の分離	・有機化合物の性質を利用して、混合物を分離できることを理解しているとともに、分離の手順について実験操作を含めて理解している。	○	○	○
	中間試験			○	○	

1 学期 後半	第5編 高分子化合物				
	第1章 高分子化合物の性質	1 高分子化合物の構造と性質	・高分子化合物の分類や構造、特徴などを理解している。 ・重合に関して、それぞれの方法の名称と定義を理解している。	○	○
	第2章 天然高分子化合物	1 糖類	・単糖、二糖、多糖の種類や名称、構造、性質、反応について理解し、糖類を分類することができる。	○	○
		2 アミノ酸とタンパク質	・タンパク質の構造や分類、性質、検出方法について理解し、構造に基づき性質や反応性を判断できる。 ・酵素の働きや反応条件について理解している。	○	○
	第3章 合成高分子化合物	1 合成繊維 2 合成樹脂 3 ゴム	・縮合重合、開環重合、付加重合により合成される合成繊維や合成樹脂について、名称や構造、性質を理解している。 ・天然ゴムと合成ゴムの種類や名称、構造、性質及び反応について理解している。	○	○
	期末試験			○	○
2 学期 前半	第3編 無機物質				
	第1章 非金属元素	1 元素の分類と周期表 2 水素・貴ガス元素 3 ハロゲン元素 4 酸素・硫黄 5 窒素・リン 6 炭素・ケイ素	・周期表に基づいて、元素の分類や周期性について理解している。 ・水素の単体や水素化合物、貴ガスの性質を理解している。 ・ハロゲン元素やハロゲン化水素の性質を理解し、その反応性の強弱を判断できる。 ・酸素、硫黄、窒素、リンの単体や化合物の性質を理解している。 ・炭素の単体や化合物の性質を理解し、同素体の構造を判断できる。 ・気体の製法と性質についてまとめることができる。	○	○
	第2章 典型元素	1 アルカリ金属元素 2 アルカリ土類金属元素 3 アルミニウム・スズ・鉛	・アルカリ金属やアルカリ土類金属元素の単体や化合物、イオンの性質を理解している。 ・アルミニウム・スズ・鉛の単体や化合物、イオンの性質を理解している。 ・両性金属の酸や塩基との反応を理解し、化学反応式で表すことができる。	○	○
				○	○
	中間試験			○	○
2 学期 中	第3章 遷移元素	1 遷移元素の特徴 2 鉄、3 銅、4 銀・金、5 亜鉛、6 クロム・マンガン、7 その他	・遷移元素の特徴について、電子配置などに基づいて理解している。 ・錯イオンの名称や化学式、形や水溶液の色を理解し、表現できる。	○	○
				○	○

後半		8 金属イオンの分離・確認	・金属イオンの反応性を理解し、その違いに基づき、複数の金属イオンを含む混合溶液から金属イオンを分離する方法を判断できる。	○	○	○
	期末試験			○	○	
3 学期	終章 化学とともに歩む	第1部 さまざまな物質と人間生活 第2部 化学が築く未来	・化学で学んだ内容と人間生活の結びつきについて理解している。 ・身のまわりで用いられている化学で学んだ内容について説明することができる。	○	○	
				○	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団		
理科	生物	5	3	理系 生物選択者		
使用教科書		副教材等				
生物（数研出版）		スクエア最新図説生物（第一学習社） セミナー生物（第一学習社）				
科目の目標						
生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けるようとしながら 観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。 生物や生物現象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度と，生命を尊重し，自然環境の保全に寄与する態度を養う。						
評価の観点とその趣旨						
①知識・技能	生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けている。					
②思考・判断・表現	生物学に関する現象について，観察，実験などを通して探究し，話し合い，レポートの作成，発表を行いながら，生物現象の特徴を見いだして表現している。					
③主体的に学習に取り組む態度	生物や生物現象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度と，生命を尊重し，自然環境の保全に寄与する態度を身につけている。					
評価方法						
① 各種テストの知識を問う問題、観察、実験での実験操作 ② 各種テストの思考を問う問題、課題や観察、実験のレポート ③ 観察実験の参加、観察実験のレポートなど						
学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
1学期	第4章 遺伝情報の発現と発生	4. 発生と遺伝子発現 5. 遺伝子を扱う技術	①遺伝情報の発現と発生のしくみがわかる。②遺伝情報の発現と発生を考えることができる。③DNAの構造，遺伝情報の複製・転写・翻訳のしくみ，そして原核生物と真核生物とで異なる遺伝子発現の調節を学び，バイオテクノロジーの原理とその応用について調べようとする態度が育っている。	○ ○	○ ○	

2 学 期	第5章 動物の反応と行動	1. 刺激の受容 2. ニューロンとその興奮 3. 情報の統合 4. 刺激の反応 5. 動物の行動	①刺激の受容と反応について、動物の反応を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。 ②刺激の受容と反応について、観察、実験などを通して探究し、環境変化に対する生物の応答の特徴を見いだして表現している。 ③刺激の受容と反応に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養おうとしている。 ①動物の行動について、神経系の働きと行動との関係を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。 ②動物の行動について、観察、実験などを通して探究し、神経系の働きと行動との関係を見いだして表現している。 ③動物の行動に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養おうとしている。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○
	第6章 植物の環境応答	1. 植物の生活と植物ホルモン 2. 発芽の調節 3. 成長の調節 4. 器官の分化と花芽形成の調節 5. 環境の変化に対する応答 6. 配偶子形成と受精	①植物の環境応答について、植物の成長や反応に植物ホルモンが関わることを見いだして理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。 ②植物の環境応答について、観察、実験などを通して探究し、神経系の働きと行動との関係を見いだして表現している。 ③植物の環境応答に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養おうとしている。	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○
	第7章 生物群集と生態系	1. 個体群の構造と性質 2. 個体群内の個体間の関係 3. 異なる種の個体群間の関係 4. 生態系の物質生産と物質循環 5. 生態系と人間生活	①生態と環境について、個体群と生物群集のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。 ②生態と環境について、観察、実験などを通して探究し、生態系における生物間の関係及び生物と環境との関係性を見いだして表現している。 ③生態と環境に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養おうとしている。 ①生態と環境について、生態系の物質生産と物質循環のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。 ①生態系の物質生産と物質循環に関する資料にもとづいて、生態系における物質生産及びエネルギーの移動と生態系での物質循環とを関連づけて理解している。 ③生態系の物質生産と物質循環に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養おうとしている。 ①生態と環境について、生態系と人間生活のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。 ②生態系と人間生活に関する資料にもとづいて、人間生活が生態系に及ぼす影響を見いだして理解している。 ③生態系と人間生活に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養おうとしている。	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○

教科	科目	単位数	学年	集団
保健体育	体育	3	3 年	

使用教科書	副教材等
現代高等保健体育（大修館701）	現代高等保健体育・図説現代高等保健体育（大修館701）

科目の目標
体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。 (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 (3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

評価の観点とその趣旨	
①知識・技能	- 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の多様性や体力の必要性について理解している。 - 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動が豊かに継続することができるようにするための技能を身に付けている。
②思考・判断・表現	自己や仲間の課題や豊かなスポーツライフを継続するための課題を発見し、 - 合理的、計画的な解決に向けて思考し判断する力を身に付けている。 - 解決の仕方や気付いたこと等について自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身に付けている。
③主体的に学習に取り組む態度	運動における競争や協働の経験を通して、 - 公正、協力、責任、参画、共生などの意欲を高めようとしている。 - 健康・安全を確保したり、運動を主体的に取り組もうとしている。

評価方法
- 運動の知識・技能の点検、確認、分析（ルール等の小テスト、スキルテスト、発表会、学習プリント・ノート等） - 記述の点検、確認、分析（学習プリント・ノート、グループワーク等） - 行動の観察、確認（グループ活動の姿勢、安全性の確保、授業への取組状況 等）

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	体づくり運動	体ほぐしの運動 (集団行動、体ほぐし)	集合、整頓、列の増減、方向変換などの仕方を理解し、行動できる。	○		
			定期的・計画的に運動を継続することは、心身の健康、健康や体力の保持増進につながる意義があることを理解できる。	○		
			いろいろな体ほぐしの運動を行うことを通して、気付いたり、仲間と関わりあったりしている。		○	
			集団行動や体ほぐし運動を主体的に取り組むとともに、健康・安全を確保し活動している。			○

5	陸上競技	100M走	記録の向上につながる動きのポイントを理解し、技術と関連させた運動や練習を継続して行うことができる。	○		
		三段跳び				
		砲丸投げ（男子）	合理的なフォームを身に付けることで記録の向上を図ることができる。	○		
		ソフトボール投げ（女子）	自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えることができる。		○	
6			主体的に取り組むとともに、結果を冷静に受け止め、課題解決に向けて、お互いに助け合い、教え合おうとしている。			○
		ゴール型	各種目で用いられる技術の名称やポイントを理解し、それぞれの技術を実践することができる。	○		
		サッカー（男子）	合理的な動きと自己の動きを比較して、成果や改善すべきポイントを見付けることができる。		○	
		ネット型				
7	球技	バレーボール（女子）	主体的に取り組むとともに、事故防止の心得を遵守し健康・安全を確保している。			○
9	体づくり運動	新体力テスト	運動には体力向上の原則があることを理解し、運動のねらいやバランスを考え、自分にあった運動を計画し取り組むことができる。	○		
		体力を高める運動	運動のねらいや体力の程度を踏まえ、自己や仲間の課題に応じた強度、時間、回数、頻度を設定することができる。		○	
			主体的に取り組むとともに、危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保すること。			○
	体育理論		豊かなスポーツライフの設計の仕方について理解すること。	○		
			豊かなスポーツライフの設計の仕方について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えること。		○	
			豊かなスポーツライフの設計の仕方についての学習に主体的に取り組むこと。			○
10	球技	ゴール型	球技において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて、理解している。	○		
		サッカー（男子）	安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。	○		
		ネット型				
		バレーボール（女子）	攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。		○	
11			主体的に取り組む、互いに助け合い、教え合おうとしている。			○
12	選択球技	バスケットボール	選択した球技において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて理解している。	○		
		バレーボール	役割に応じて、拾ったりつないだり打ち返したりすることができる。			
		バドミントン	選択した球技について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。		○	
		卓球	球技の学習に主体的に取り組もうとしている。			○
1		ソフトテニス				
		サッカー				

教科	科目	単位数	学年	集団
外国語科	英語コミュニケーションⅠ 演習	4	3年	全 員

使用教科書	副教材等
FLEX English Communication Ⅰ (増進堂)	長文演習問題集、Vintage、速読英単語 他

科目の目標
(1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。 (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。 (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

評価の観点とその趣旨	
知識・技能	受け身の不定詞や複合関係代名詞など、本書で学習する文法に加えて、語彙や表現などの用法や意味を理解している。また、報告文や新聞記事などの多様な英文から情報を読み取り、整理しながら理解したり、自身の考えや意見を学習した語句や文を適切に活用して、発信したりする技能を身につけている。
思考・判断・表現	日常的、社会的な話題の説明を聞いたり読んだりして、情報や考えなどの概要や要点を的確に捉えている。また、本書で学習した内容について、自身の考えや意見を明確な理由や根拠とともに、詳しく伝えている。
主体的に学習に取り組む態度	日常的、社会的な話題についての内容を理解しようとしている。また、学習した内容を相手に配慮しながら、主体的、自律的に伝えようとしている。理解した情報ややり取りをした内容について効果的な理由や根拠とともに、まとまりのある文章を書こうとしている。 継続的な学習や活動の成果、結果から自身でフィードバックを行い、個々の目標達成に応じて改善を試みようとしている。

学習と評価の計画													
時期	単元	単元の目標					総括のための観点別学習状況の評価の記録					評価場面	評価方法
		主な領域			CE FR	主な領域において何ができるようになるのか	L	R	I	P	W		
		CAN=DO	ID										
		領域	NO	記号									
1学期前半	L1	LI	1	ア	A2	・旅行に関する記事を正確に読み取ることができる。 ・And/orが結びつける内容をとらえることができる。 ・資料を扱う文章で用いられる語句を使い表現することができる。	思態		知思態			授	PFT
	L2	W	1	ア	A2	・環境問題に関する記事を正確に読み取ることができる。 ・動詞の過去形と過去分詞形の違いを識別することができる。 ・資料を扱う文章で用いられる語句を使い表現することができる。		知思		知思		他	PT
1学期後半	L3	R	1	イ	A2	・登場人物の心理を正確に読み取ることができる。 ・文章を定められた字数で要約することができる。 ・資料を扱う文章で用いられる語句を使い表現することができる。		知思態				定	PT
	L4	P	1	イ	A2	・衣食住に関する記事を正確に読み取ることができる。 ・次に出てくる英文の形を予測しながら読むことができる。 ・本文に出てきた語句の意味を理解し、正しく発音することができる。		知思		知思態		授	PT/PFT
2学期前半	L5	R	2	イ	B1	・人体に関する記事を読み、正確に読み取ることができる。 ・イラストと英文を正確に結びつけることができる。 ・本文に出てきた語句の意味を理解し、正しく発音することができる。		知思態				定	PT
	L6	L I	2 3	イ	B1	・宇宙工学に関する記事を読み、正確に読み取ることができる。 ・指示された語数で英文要約することができる。 ・本文に出てきた語句の意味を理解し、正しく発音することができる。	思態			知思態		授	PFT

2 学期 後半	L7	R	2	イ	B1	・発音の違いに関する記事を読み、正確に読み取ることができる。 ・指示された語数で日本語で要約することができる。 ・本文に出てきた語句の意味を理解し、正しく発音することができる。		知思態					定	PT
	L8	W	3	ア	B1	・商業やサービスに関する記事を読み、正確に読み取ることができる。 ・トピックセンテンスをやキーフレーズを理解することができる。 ・本文に出てきた語句の意味を理解し、正しく発音することができる。		知思			知思		定・他	PT
3 学期	L9	R	2	イ	B1	・生物学に関する記事を読み、正確に読み取ることができる。 ・説明文中で使われる分詞構文を理解することができる。 ・本文に出てきた語句の意味を理解し、正しく発音することができる。		知思態					定	PT
	L10	R	2	イ	B1	・お茶の歴史に関する記事を読み、正確に読み取ることができる。 ・文の書き出しに着目して内容把握することができる。 ・本文に出てきた語句の意味を理解し、正しく発音することができる。		知思態					定	PT

※総括のための観点別学習状況の評価の記録：知（知識・技能）、思（思考・判断・表現）、態（主体的に学習に取り組む態度）

※評価場面：授（授業内）、定（定期テスト等）、他（課題内容等）

※評価資料：PT（ペーパーテスト等）、PFT（パフォーマンステスト）、PT/PFT（ペーパーテスト等及びパフォーマンステスト）

備考欄

教科	科目	単位数	学年	集団
外国語	論理・表現Ⅱ	2	3	全 員

使用教科書	副教材等
be English Logic and ExpressionⅡ Smart (いいずな書店)	演習問題集、リスニング問題集、vintage 他

科目の目標
言語や文化に対する理解を深め、コミュニケーションを図ろうとする態度を養うとともに、論理的な思考力を養い、論理の展開や表現の方法を工夫し、伝える能力を養う。

評価の観点とその趣旨	
知識・技能	習得すべき知識や重要な概念等を理解している。それらを既有的知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、概念等として理解したり、技能を習得したりしている。
思考・判断・表現	知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしている。

学習と評価の計画													
時期	単元	単元の目標					総括のための観点別学習状況 の評価の記録					評価 場面	評価 方法
		主な領域			CE FR	主な領域において何ができるようになるのか	L	R	I	P	W		
		CAN-DO	ID										
		領域	NO	記号									
1 学期 前半	L10	P	3	イ	B1	・比較表現を正しく用いて表現することができる。 ・日本を紹介することについて話したり書いたりすることができる。 ・意欲的にコミュニケーションを行い、自分のことを伝え、相手の言うことを理解する姿勢がみられる。				知思態		授・定	PT
	L11	W	3	イ	B1	・仮定法を正しく用いて表現することができる。 ・イノベーションについて話したり書いたりすることができる。 ・意欲的にコミュニケーションを行い、自分のことを伝え、相手の言うことを理解する姿勢がみられる。				知思態		授・定	PT
	L12	I	3	イ	B1	・that節や語法などを正しく用いて表現することができる。 ・多様性を受け入れる社会について話したり書いたりすることができる。 ・意欲的にコミュニケーションを行い、自分のことを伝え、相手の言うことを理解する姿勢がみられる。			知思態			授・定・他	PT/PFT
1 学期 後半	L13	P	3	イ	B1	・存在や変化を表す表現を正しく用いて表現することができる。 ・観光と日本社会について話したり書いたりすることができる。 ・意欲的にコミュニケーションを行い、自分のことを伝え、相手の言うことを理解する姿勢がみられる。				知思態		授・定	PT
	L14	W	3	ア	B1	・使役動詞や知覚動詞を正しく用いて表現することができる。 ・食と健康について話したり書いたりすることができる。 ・意欲的にコミュニケーションを行い、自分のことを伝え、相手の言うことを理解する姿勢がみられる。				知思態		授・定	PT
	L15	I	3	イ	B1	・英語らしい表現方法を正しく用いて表現することができる。 ・世界が抱える問題とSDGsについて話したり書いたりすることができる。 ・意欲的にコミュニケーションを行い、自分のことを伝え、相手の言うことを理解する姿勢がみられる。			知思態			授・定・他	PT/PFT
2 学期 前半	U1	W	3	イ	B1	・既習事項を用いて与えられたテーマに沿って正しく表現することができる。					知思態	授・定・他	PT
	U2	W	3	イ	B1	・既習事項を用いて与えられたテーマを正しく理解することができる。					知思態	授・定・他	PT

	U3	W	3	イ	B1	・既習事項を用いて与えられたテーマに沿って正しく表現することができる。					知思態	授・定・他	PT
2 学期 後半	U4	W	3	イ	B1	・既習事項を用いて正しく聞き取り、状況に応じて表現することができる。	知思態				知思態	授・定・他	PT
	U5	W	3	イ	B1	・既習事項を用いて与えられたテーマを正しく理解することができる。					知思態	授・定・他	PT
	U6	W	3	イ	B1	・既習事項を用いて与えられたテーマに沿って正しく表現することができる。					知思態	授・定・他	PT
3 学期	U7	W	3	イ	B1	・既習事項を用いて正しく聞き取り、状況に応じて表現することができる。					知思態	授・定・他	PT

※総括のための観点別学習状況の評価の記録：知（知識・技能）、思（思考・判断・表現）、態（主体的に学習に取り組む態度）

※評価場面：授（授業内）、定（定期テスト等）、他（課題内容等）

※評価資料：PT（ペーパーテスト等）、PFT（パフォーマンステスト）、PT/PFT（ペーパーテスト等及びパフォーマンステスト）

備考欄